

特集「ソフトウェア工学」の編集にあたって

立石 孝彰^{1,a)}

ソフトウェア工学は、開発から保守まで、ソフトウェアのライフサイクルに関わる様々な側面を対象とした理論と技術を扱う研究分野である。近年では、社会基盤としてのITを取り巻く環境の変化が早く、これにともない、ソフトウェアの品質や開發生産性等、ソフトウェアに対する要求にも変化が生じている。このような時代において、現実のソフトウェア開発で起きている問題、あるいは、これから起こるであろう問題を迅速に取り上げ解決することが求められている。このような状況に対して、ソフトウェア工学における研究では、普遍的な基礎理論の積み重ねに加えて、理論的研究に基づく新しい原理の解明、経験の体系化とその実証実験などの幅広い科学的または工学的なアプローチが必要である。さらに、個々のアプローチを相互に連携させ、より確実かつ現実の問題に適した解決方法を導き出すことが特に重要である。

このような背景をふまえて、情報処理学会ソフトウェア工学研究会では、シンポジウム、ワークショップ、研究発表会等を主催し、ソフトウェア工学に携わる産学の研究者、ソフトウェア開発に携わる技術者・実務者等へ広く参加を呼びかけている。この目的は、研究者・技術者・実務者間において、基礎理論の研究成果から実務における経験までの幅広い知見を共有し議論する場を提供するためである。本特集号もこれらの活動の一環として企画したものである。

本特集号は、ソフトウェア工学に関連した研究開発全般について、最新の研究成果や開発事例に基づく知見等を幅広く掲載することを基本方針とした。さらに、通常の論文投稿だけでなく、ソフトウェア工学研究会主催のソフトウェアエンジニアリングシンポジウム2015 (SES2015) に投稿されたシンポジウム投稿論文との同時投稿を奨励した。シンポジウム投稿論文をそのまま、もしくは拡張した論文を受け付け、優れた研究成果をシンポジウムだけでなく、論文誌への早期の投稿を促して社会への貢献を推進することを目的とした。このソフトウェアエンジニアリングシンポジウムとの連携は、2011年から継続して行っている。

本特集号には、上記のSES2015との同時投稿論文を含めて、22編の論文の投稿があり、厳正な査読と2回の編集

委員会での慎重な議論検討を経て、最終的に4編を採択した。編集委員会では、1回目の査読において条件付採録となった論文については、その採録条件の明確化に努めた。また、最終的に不採録と判定された論文については、不採録理由および査読コメントが論文改訂にとって有益となるよう努めた。採択された論文は、要求仕様書、ソースコードやプログラミング、さらには、プロジェクト管理を対象としており、採択数は少ないながらも、本特集号において広くトピックを扱うことができた。また、残念ながら本特集号では採択とならなかった論文については、不採録理由および査読コメントを参考にして、改訂・再投稿されることを期待している。

最後に、本特集号に投稿していただいた著者の皆様、本特集号の機会を与えていただいた論文誌編集委員会、多忙にもかかわらず丁寧な査読や議論にご尽力いただいた特集号編集委員と査読者の皆様に深く感謝致します。

「ソフトウェア工学」特集号編集委員会

- 編集長
立石孝彰 (日本 IBM)
- 編集委員
阿萬裕久 (愛媛大学), 鶴林尚靖 (九州大学), 岡野浩三 (信州大学), 花川典子 (阪南大学), 丸山勝久 (立命館大学), 岸 知二 (早稲田大学), 亀井靖高 (九州大学), 菊地奈穂美 (沖電気工業), 権藤克彦 (東京工業大学), 高田眞吾 (慶應義塾大学), 斎藤 忍 (NTT), 坂田祐司 (NTT データ), 小林隆志 (東京工業大学), 大平雅雄 (和歌山大学), 沢田篤史 (南山大学), 中谷多哉子 (筑波大学), 長谷川勇 (スクウェア・エニックス), 田原康之 (電気通信大学), 福田浩章 (芝浦工業大学), 門田暁人 (岡山大学), 野田夏子 (芝浦工業大学), 鷺崎弘宜 (早稲田大学)

¹ 日本アイ・ビー・エム株式会社東京基礎研究所
IBM Research, Tokyo, Japan

^{a)} tate@jp.ibm.com